



埼玉大学教育学部附属

教育実践総合センターNEWS

NO.7 2013年 3月

目 次

あいさつ センター長 岩川 直樹	1
『教職員キャリアアップ・サポートセミナー』	2
『教職スタートアップ講座』の開設について	2
「ストレス・マネジメント実践講座 アドバンスコースを実施しました！」	2

教育実践研究部門より	3
学校臨床心理部門より	4
教員養成開発部門より	5
おしらせ・スタッフ・アクセス	6

アソシエーションの編み直しの一環として

センター長 岩川 直樹

人びとが織りなす関係や場を示す「アソシエーション」という言葉がある。動詞の「アソシエイト」は「つながる、結びつく、交わる、集まる」という意味をもち、その名詞形の「アソシエーション」は「結合、交流、会合、協会」といった意味をもっている。家族も親戚も、学校も会社も、役所も議会も、自治体も国家も、組合も学会も、子どもの遊び仲間も大人の宴会も、みんな「アソシエーション」だ。ヒトは実際に多様な仕方で互いにアソシエイトし合う生き物であり、人間はたえず新たな仕方でアソシエーションを編み直してゆく存在なのだ。鯉が生きるうえで池の水が不可欠の要素であるように、アソシエーションは人間が人間として生きるうえでの根源的なエレメントをなしている。

この時代と社会のなかで私たちが直面する「問題」の多くは、その意味でのアソシエーションの傷つきの問題として引き受けられるべきものだろう。それぞれの「問題」が、私たちのアソシエーションのどのような変化から生まれてきたものであり、それを緩和したり改善したりするためには、どんな既存のアソシエーションの組み替えや新たなアソシエーションの連関こそが意味をもつかと問うこと。アソシエーションの傷つきが生み出す人びとの苦しみは、アソシエーショ

ンを編み直すことしか本質的には改善されない。

しかし、そのような関係論的な見方を互いに共有することは、かならずしも容易なことではない。個々のひとは目に見えても、ひとが織りなす関係は目に見えない。しかも、問題を個人の「自己責任」や「〇〇力」に還元する言葉が人びとのあいだに流通するとき、「からだ」では感じている関係の問題を「ことば」で自覚することができなくなってしまう。池の水が干からびたせいで鯉が自由に泳げずに苦しんでいるのに、個々の鯉にヒレの振り方のスキルを教えるばかりで、池の水を見ようとしないなら、「問題」は深刻化するばかりだろう。だが、池の水を自分たちで満たすことができない鯉とはちがって、ひとはひととのあいだで、互いのアソシエーションを編み直してゆくことができる。ひととひととの「間」が鯉にとっての「水」のようなものだとすれば、ひとは自分たちのまわりにわずかな「水たまり」をつくることも、互いの「水たまり」をつないでゆくこともできる。

教育実践総合センターは、大学の教職員や学生が地域の子どもや教師や行政官や市民とのあいだに多様なアソシエーションを創造するためのひとつの拠点としての役割を担ってきた。人間的なアソシエーションの傷つきがもたらす子どもたちや保護者の苦しみが深刻な度合いに達し、そこに向かい合う教師の仕事の場もまたかつてない困難と苦悩をきわめているいま、いかなるアソシエーションの問い合わせや編み直しがこの状況の歯止めにつながるのかをみんなで模索すること。教育実践総合センターの一つひとつの試みを、そのようなアソシエーションの再創造の一環として大切にしてゆきたい。

『教職員キャリアアップ・サポートセミナー』

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターでは、平成23年度より、地域貢献の一環として、さいたま市の教職員を対象とする研修会「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」を実施しています。

「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」は、臨時の任用教員や相談員、支援員等、非正規採用の教職員を中心に、さいたま市の教職員全体の資質能力の向上を図るとともに、非正規採用の教職員が自信を失うことなく正規採用教員へと向かっていくことができるよう支援していくことを目的としています。

平成24年度は、学校教育における現代的課題をテーマに10回のセミナーを実施しました。

回	実施日 <15:00~17:30>	テーマ
1	5月26日（土）	よりよい人間関係の築き方①～児童生徒との関係づくり～
2	6月16日（土）	よりよい人間関係の築き方②～保護者との関係づくり～
3	7月14日（土）	学校事故対応～学校・学級で起こりうる事故と危機～
4	9月22日（土）	不登校対応
5	10月13日（土）	特別支援教育①～児童生徒への支援～
6	10月20日（土）	特別支援教育②～保護者への支援～
7	11月17日（土）	スクールセクハラを考える
8	12月15日（土）	ストレス・マネジメント
9	1月26日（土）	情報技術に脅かされる児童生徒の安全
10	2月9日（土）	キャリア教育

『教職スタートアップ講座』の開設について

平成25年度後期から教育学部及び他学部の教職免許状取得予定の4年生の学生に対して、教職実践演習の受講が必修化されます。この科目では、実際に教職に就くにあたって、より実践的な知識・技能を補うことを目的としています。埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターでも、『教職スタートアップ講座』を開設し、「教職の専門性」「特別な支援が必要な児童生徒への対応」「学校カウンセリング」等15回の演習を行う予定です。

『ストレス・マネジメント実践講座 アドバンスコースを実施しました！』

「人間形成総合科目：ストレス・マネジメント」授業の内容を、さらに特化した単発講座です。今年度は2回行い、学部生、大学院生が参加しました。グループワークを中心の講座なので、「他の人の考えを知ることで、自分を振り返る良い機会になった」「ワークが面白かった」「コミュニケーションのコツがわかり、日常生活に活かしたい」といった感想が多く、好評でした。来年度以降も開催する予定です。

第1回 「自分の特徴を理解してストレスに立ち向かう

—交流分析の「人生の立場」の視点から—

1月29日（火）13時～16時半（東京経済大学 鈴木佳子先生）

第2回 「コミュニケーションのコツを学ぶ

—自分を知る・相手を知る・関係を知る—

2月19日（火）13時～16時半（専修大学 金子玲子先生）



教育実践研究部門

教育の臨床の学の探求

実践者・授業者としての専門性の探究

- 「学ぶこと」のヴィジョン
- Action のリフレクション

教師の授業実践と子どもの学びを支援

教室のアクション・リサーチ
実践知の省察

学生・院生も含めた相互共有

プロジェクト研究

教室の学びとつながりを編み直すための基礎研究

- 教室の子どものナラティブを見ることから、関係性を編み直す
- 学びの「材」を読み深めることで教師・教材・子どもの関係性を編み直す

平成24年度 アクション ・リサーチ連携校

- 熊谷市立中条中学校
- 同 大幡中学校
- 宮代市立百間中学校
- 須賀川市立西袋第一・二小学校
- 宇都宮市立陽東小学校
- 茅ヶ崎市立浜之郷小学校
同 鶴が台小学校
- 富山市立奥田小学校
同 水橋中部・大広田小学校
- 伊丹市立天神川小学校
- 高知市立鴨田小学校
同 一ツ橋小学校
- 香南市立野市東小学校
- 富士市立元吉原中学校
同 田子浦・藤川第二中学校
- 焼津市立小川中学校
- 富山市立岩瀬中学校
同 北部中学校

学校改革・授業改革

- 「聴き合う」「学び合う」学び
- 「探究」と「対話」による学び
- 「同僚性」の構築
- 「アクション」～市民性への学び

Narrative Standard の開発

協働生成・形成的スタンダード

- 授業と学びを物語ること
- 形成的評価＝発展開発機能
- カリキュラム開発機能
- 同僚性を構築すること
- 授業者としての身体性
聴く～対話
声～Elaboration～交響
レッスンの場としての機能
- 大学が役割を果たしつつ、
学校コミュニティの場創り

『木曜ゼミ』

ビデオによる授業カンファレンス

- 木曜日 午後6時
- クリニコス・ホール
(コモ棟2F)

県内外の小・中学校の授業実践のビデオを見て、語り、学び合います。

多様な視点の交流により、教師の実践知を学び合いましょう。

参加希望の方は、
事前にご連絡を。

さいたま市の「教師力パワーアップ講座」と連携して、「第3金曜」にも行う予定です。

平成24年度 研究員

- 守屋 淳 氏
北海道大学大学院教育学研究院
高橋 美保 氏
東京大学大学院教育学研究科
能智 正博 氏
東京大学大学院教育学研究科
霜村 三二 氏
元朝霞市立朝霞第十小学校教諭
本谷 宇一 氏
日本生活教育連盟「ことばと教育」
部会代表世話人
フレネ教育研究会 会員
中村 麻由子 氏
東京学芸大学大学院連合学校教育学
研究科教育方法論講座
日本学術振興会特別研究員

【センター長 & 部門 共同研究会】

- 「ある教師の教師生活最後日の授業」
4月21日(土)
「水俣の授業について語り合う」
5月19日(土)
「初任教師の暮らしを考える」
12月26日(水)
「行ってみませんか、人権の森へ
知っていますか、ハンセン病のこと
—『国立ハンセン病資料館』と
『多摩全生園』を訪ねる—」
8月4日(土)

学校臨床心理部門

本部門は従来、学部の教員養成に関わる活動、附属学校園との連携強化、研究活動、地域貢献に力を入れています。今年度は、昨年度同様、教職員を対象とした支援活動・研修機会の提供を重点課題として取り組みました。また、研究員や附属特別支援学校の教員との共同研究も活発に行いました。

◆学部学生への指導・支援

1. 人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」の実施

『人間形成総合科目』「ストレス・マネジメント」は開講5年目を迎え、当部門の教員2名と教育実践研究部門の教員1名の3名がオムニバス形式で担当しました。「教職とストレス」では教員養成開発部門の教員2名をゲストスピーカーとしてお招きし、「ストレスとのつきあい方」では音楽教育講座の教員にプロの演奏家としてのストレスとのつきあい方などを、ピアノ演奏を交えてお話しいただきました。今年度も学生には好評で、「気持ちが楽になった」「ロールプレイングやリラクセーションなど、体験学習が参考になった」「ストレスへの対処法や考え方を学び、実践することにより、人間として成長することができた」などの感想が寄せられました。

2. 「ストレス・マネジメント実践講座アドバンスコース」の実施

上記授業のアドバンスコースとして、今年度も外部講師をお招きして、ストレス・マネジメント実践講座を1月に1回、2月に1回開催しました。

・第1回「自分の特徴を理解してストレスに立ち向かう 一交流分析の「人生の立場」の視点から一

1月29日（火）13時～16時半

講師：東京経済大学学生相談室 鈴木 佳子 先生

・第2回「コミュニケーションのコツを学ぶ 一自分を知る・相手を知る・関係を知る一

2月19日（火）13時～16時半

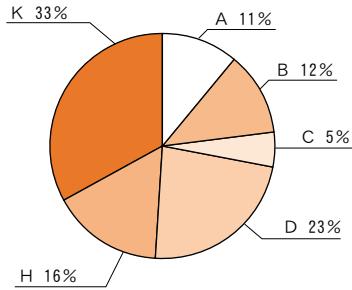
講師：専修大学学生相談室 金子 玲子 先生

◆附属学校園との連携

1. 附属学校園の児童・生徒、保護者、教員やスクールカウンセラーを対象とした相談活動

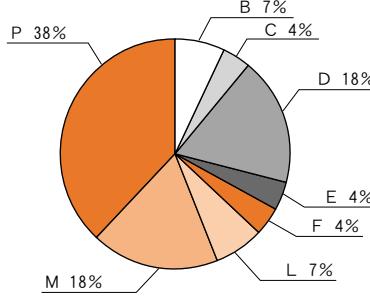
この相談活動は、附属学校園との連携の主軸であり、附属中学校に配置されたスクールカウンセラーとも連携を図りながら、相談活動を行っています。相談およびコンサルテーションの内容と割合は以下の通りです（2013年1月末日現在）。

相談内容



- A : 子どもの問題行動に関するもの
- B : 子どもの性格に関するもの
- C : 子どもの病気に関するもの
- D : 子どもの発達障害に関するもの
- H : 学習・進路に関するもの
- K : 学校生活に関するもの

コンサルテーション内容



- B : 子どもの性格に関するもの
- C : 子どもの病気に関するもの
- D : 子どもの障害に関するもの
- E : 不登校
- F : 友人関係
- L : 保護者理解と対応に関するもの
- M : 連絡会議
- P : その他

◆さいたま市（教育研究所）とのコラボレーション講座の開講

教育実践研究部門とともに、「教職員のためのメンタルヘルスとリラクセーション講座」を毎月開講しています。また、教員養成開発部門と共同で「教員キャリアアップ・サポートセミナー」を10回開講しました。このセミナーは、独立行政法人教員研修センターの「平成24年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の受託事業として、さいたま市立小・中・特別支援学校に勤務する臨時の任用教員、さわやか相談員、学級支援員、学生らを主な対象に行われました。

好評だったので、来年度も開講を予定しています。

◆研究活動

研究員、附属特別支援学校特別支援教育臨床研究センター「しいのみ」スタッフとともに取り組んだ研究報告は以下の通りです。

- ・「高校生の学校ストレスに関する自己効力感、コーピング様式が現実の行動・理想の行動に及ぼす影響—学年差の検討」若海由美・尾崎啓子

（センター紀要第12号印刷中）

- ・「学校カウンセリングに関する国立大学と附属学校園との連携～スクールカウンセラーと養護教諭を対象とした聞き取り調査」相澤直子・尾崎啓子

（センター紀要第12号印刷中）

- ・「通常学級の担任を対象にしたコンサルテーションモデル作成の試み」木村雅昭・國分操・小川まゆ・尾崎啓子

（特別支援教育臨床研究センター年報第4号印刷中）

教員養成開発部門

「教員養成開発部門」は、今年度も引き続き、埼玉県及びさいたま市教育委員会と連携し、教員養成の充実、教員の資質能力の向上等について、より一層実践的な研究及び活動を行っています。

1 教育委員会との連携を視野に入れた「学校フィールド・スタディA」の実施

大学と学校現場との学びを往還的につなぎ、質の高い教員としての資質能力を養成する目的で実施している本授業は、本年度も引き続き、学びのフィールドを幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校に確保し、学生の体験の充実を図ってきました。本授業を推進する観点から、以下の活動を実施しています。

- 事前授業の実施（4月・10月）
- 実施校への視察と協議の実施（1月）
- 振り返り授業①②の実施（10月・1月）
- 学習相談、補充授業の実施（適宜）

特に、振り返り授業①②では、指導者として埼玉県・さいたま市教育委員会の方に御講義をいただきたり、グループ協議の中で指導講評をいただきたりしています。



【グループ協議の様子】

2 進路指導委員会、教職支援室との共催による教職支援セミナーの実施

教職支援セミナーは、教員としての職務を円滑に進めることができる能力や、教員としての見方・考え方等の資質の育成を図ることを目的としています。

教育に係わる国の動向、埼玉県・さいたま市教育委員会の推進する教育施策、学校現場の抱える様々な課題、服務と教育法規等についての講義を実施しています。

主として、前期には4年生対象プログラムを、後期には3年生対象プログラムを実施しています。各プログラムともおよそ300名の学生が参加し、教職に対する理解を深める機会となっています。

3 教職スタート準備講座の実施

教職支援セミナーは、教員としての職務を円滑に進めることができる能力や、教員としての見方・考え方等の資質の育成を図ることを目的としています。

教育に係わる国の動向、埼玉県・さいたま市教育委員会の推進する教育施策、学校現場の抱える様々な課題、服務と教育法規等についての講義を実施しています。

主として、前期には4年生対象プログラムを、後期には3年生対象プログラムを実施しています。各プログラムともおよそ300名の学生が参加し、教職に対する理解を深める機会となっています。

4 教職スタート準備講座の実施

卒業後、教職に就く予定の学生を対象に、実践的な能力の習得を目指し、10月から2月までの間、約150名の学生が参加し、セミナーを実施しています。即戦力を身に付けさせ、質の高い教員として学校現場で活躍できるよう、以下のとおり、プログラムを一層工夫し開催しています。

《プログラム例》

- ・教師の一日と学校の一年間
- ・保護者対応
- ・学校事故への対処
- ・生徒指導の基礎基本
- ・教科等の授業づくり（ICTの活用を含む）
- ・発問、板書、ノート指導の工夫
- ・学級事務、学級通信
- ・学級開きと保護者会 等

なお、講師については、教育委員会、附属学校教員をはじめ、学校教育の第一線で活躍されている方を招聘しています。



【授業の様子】

5 さいたま市立小中学校の研究発表会への学生参加

さいたま市教育委員会の協力の下、さいたま市立小中学校研究発表会への参加を促し、教育実践や学校研究に触れる機会を設けています。

平成24年度は、今まで、およそ50名という多くの学生が参加し、学校現場に触れ、指導方法等への興味・関心を深める機会となっています。

セシターの基本理念・目的

(1) 教育の臨床の学の探求

人間と人間の関係性を軸にした教育実践の本質を、理論的・実践的に探究し、確立をめざす。

(2) 教育の臨床の学にもとづく教育実践への具体的関与

(1)に基づき、学校、地域・社会における教育実践・心理教育相談に直接的に関与する。

(3) 教員養成の研究と教育

(1)に基づき、現職教育を含む教員養成の研究を行い、学部の教員養成を直接的に支援する。

(4) 教育実践の連携媒体としての機能

地域・社会教育と連携し、学内外の教育にかかるさまざまな立場、諸機関・組織をつなげ、連携の媒体となるとともに、学部教員養成の媒体的機能を果たす。

スタッフ

センター長……………岩川 直樹
教育実践研究部門……………庄司 康生・北田 佳子
学校臨床心理部門……………尾崎 啓子・椋田 容世
教員養成開発部門……………丹 能成・伊藤 秀一

客員教授（教員養成開発部門）
小杉 和子・鬼塚真知子

兼任教員……………岩川 直樹・船橋 一男
野村 泰朗・宇佐美香代
磯田三津子・澤崎 俊之
堀田 香織

事務補助員……………大田 千景

施設（貸出）使用の手続き

1. 使用を希望する人は、あらかじめセンター事務室に連絡し、希望する日時の使用予定状況を確認した後、「使用許可申請書」を事務室に提出する。

センター事務室担当者は、原則として火、水、金曜日在室です。

2. 鍵の受け渡し

【学部教員の場合】

事務室の担当者と受け渡しの日時を確認の上、正面玄関の鍵を受け取りに来る。鍵貸出簿に署名し、貸出時刻を記入する。使用当日（当日が不可能な場合はできる限り速やかに）に返却し、貸出簿に返却時刻を記入する。

【附属学校・園教員の場合】

使用の直前に、附属小学校教員室に、2階出入り口の鍵を受け取りに来る。鍵貸出簿に署名し、貸出時刻を記入する。使用直後に返却し、貸出簿に返却時刻を記入する。

3. 使用設備など

使用後は清掃を行い、使用した設備等は原状に復帰する。

4. 火気、施錠の確認

使用者の責任において、使用後の火気の始末、施錠を確認する。

アクセス



埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターニュース

No. 7 2013年3月15日 発行

編集・発行 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤6-9-44

Tel. 048-832-9866 Fax. 048-831-0044

<http://www.center.edu.saitama-u.ac.jp/>